

▼別ショットの写真



今月の表紙は、1月26日に深溝保育園で開催されたサイエンスショーでの1枚です。父母の会主催で、蒲郡市にある生命の海科学館から講師を招いて実施。写真は煙を使い、空気砲を披露している場面です。飛んでいく煙の輪を目で追う園児たち。

今月の表紙

みんなの 広場

皆さんからのサークル紹介・みんなの作品展への応募をお待ちしています。
〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴グループ
☎62-1111(内線334) FAX63-5139
E-mail:kikakujoho@town.kota.lg.jp

こたの民話

おんや 「温谷のたける」

「東の12の国々のさわぎたて従わない子どもを、やっつけろ」

お父さんのけいこう天皇から命じられたやまとたけるのみことは、やまとの国(奈良県)を後にされました。それから、おわりの熱田神宮のみやずひめのところに立ちよられ、さらに東の国へと軍を進められました。

みかわの国に入られたやまとたけるのみことは、大矢川を越え、南に進まれました。見ると、東南の方に、雲や霧が立ち込め、あやしいけはいのする山が見えました。

「あやしき山だ。あの山の名はなんと申すのか」

と、おつきの者におたずねになりました。この土地の男が

「あれは久播山(桑谷山)と申す山です。あの山から南の方には、高い山が打ち続き桑がおいしげり、道もありません。そこに温谷のたけるというぞくがいます。里へ出てきては乱暴を働くので、ほとほと困っております」

と申しあげました。すると、みことは、「そうか、しからは退治しよう。なんじ、道案内をせよ」

と申しつけられました。

みことは、山また山を越え、とある山のいただきにたどり着かれました。見れば、入江が山のすそをひたし、海はずっと西の方に続き、遠くけむっていました。なぎさには、夕日に輝く小波がひっきりなしに打ちよせ、それはそれはよいところでありました。

みことは、しばらくここに留まって、軍勢を休ませ、温谷のたけるの様子をお探りになりました。そして、「なにほどのことやある。者ども、いざ進め」

と、突撃の命令をくだされました。

明代を先頭にした、やまとたけるのみことの軍勢は、わあっとときの声をあげて、温谷のたけるの陣をめざして、討ってかかられました。激しい戦でしたが、とうとう温谷のたけるを打ち取ってしまいました。残った者たちは、幡豆の海をめざして、ばらばらと逃げ出しました。それを見たみことは、「者ども、敵を一人残らず討ち果たせ。追えや追え」

と、とうとうみんなやっつけてしまわれました。

【こたの民話 要約】

みんなの作品展!

「明るい選挙啓発ポスター入選作品展」からのセレクトです



まつお りんね
中央小6年 松尾 凜音さん



はねぶち さとみ
北部中1年 羽根淵 小登美さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課広報広聴グループまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで)

川口三太郎

「いがまんじゅう」

3月3日は「桃の節句」。この時期になると食べられる和菓子といえは……
「はやー、いがまんじゅうだわ」

「いがまんじゅう」をインターネットで検索してまず出てきたのは、埼玉県に伝わる郷土菓子でした。「赤飯まんじゅう」とは反対に、まんじゅうを赤飯で包んだ姿が栗のいがに似ていることから、「いがまんじゅう」と言われるそうです。一方、この地方の「いがまんじゅう」は、西は広島県、東は山形県に分布する「いがもち」に分類されていました。「いがもち」は、米粉を練った生地であんを包んで整えた上部に、着色したもち米の粒をのせて蒸上げた郷土菓子ですが、緑色、黄色、薄紅色の3色の米粒を色ごとに、円形で平べったいもち(まんじゅう)の上面に敷き詰めるのが、この地方に伝わる「いがまんじゅう」です。

名前の由来も諸説ありますが、埼玉県の「いがまんじゅう」ほど、栗のいがには似ていませんので、「伊賀」ではないかと思ひ、三重県の伊賀地方で唯一「いがもち」を製造販売する老舗に尋ねてみました。すると、「各地の城下に潜伏した伊賀忍者が、暗号として5色の米粒を組み合わせてもちにしたのが始まり。だから、地元には伝わっていない」と興味深いお話でした。

(文・つひな)



青春トークリレー

△△第288走者△△

やまざき せいや
山崎 晟矢さん

大草区在住 20歳 職業 社会人
血液型 B型 身長 170cm
好きなタイプ

明るくて、一緒にいて楽しい人
好きな芸能人 BIGBANG、TWICE

私は高校卒業後、自動車部品製造会社に就職し入社して2年が経ちました。学生時代とは違い、幅広い年齢の先輩たちとのコミュニケーション、お金をもらうために働く大変さや仕事を任せられる責任の重さなど、初めは色々と戸惑いがありました。

また、私生活では行動範囲が広くなり、大好きなBIGBANGのライブを見に他県へ行ったり、友達と遊んだりして気分転換をしようまくストレスを発散しています。

今年、成人式を迎えました。これからは大人の自覚を持って、自分の行動に責任を持ち、仕事と私生活ともに充実させていきたいです。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
企画政策課までご連絡ください。
本人のご家族にお渡しできます。



12月6日午後3時、大草保育園の園庭で300個の風船を子どもたちが保護者と一緒に飛ばしました。

わんぱくだより

「某月某日」
「大草保育園」

風船をとぼしたよ

風船を飛ばすきっかけとなったのは、兵庫県の宇仁小学校からとんできた風船です。風船についていた綿の種と手紙がきっかけとなり交流が始まり、宇仁小学校に行ってみたいという気持ち子どもたちの中に強くなっていきました。



「そつだ、風船で来たから、同じように手紙と綿の種を付けて風船を飛ばそう。」という考えにたどりつき、父母の会の協力を得て飛ばすことができました。飛ばした翌日、「風船を拾いました。」という一本の電話がありました。電話の主は、八丈島の三根小学校の先生でした。小学校の駐車場で拾ったそうです。風さん！この奇跡的な出会いがとう。

職場の後輩Sくんの結婚が決まったと聞き、お祝い会をやるかと本人に話したら「別にいいです」と断られた編集者のKです。新春駅伝・ファミリースヨギング大会にお邪魔してきました。寒さに負けないよう、カイロを貼って防寒対策は万全の状態で臨んだのに、太陽がのぼり始めるとカイロを貼った部分がむしる熱いぐらゐの陽気になりました。

「ちょっとひょいひょい」

編集者のひょいひょい

シヨギング部門で、お母さんと2人で参加した子どもが泣きながら手をつないでゴールするシーンがなぜか印象に残っています。それから、取材に来ていたケーブルテレビのスタッフから「すごい早い小学生の子がいたんですけど、どこの小学校の子か分かりますか」と聞かれましたが、残念ながら僕のカメラには写っていませんでした(涙)。

シヨギングの部には810人、駅伝には228チームの参加があり、それぞれスタートの場面は人数で迫力がありました。撮影に夢中になり過ぎてせまってくるランナーが走るコースを邪魔しないように注意が必要でした(笑)。

おそろいのユニホームで参加している一般のチームを多数見かけました。ユニホームがそろっているだけで速そうに見えるのですが、最下位のチームもおそろいのユニホームでした。(K)